

第12回若手技能者の採用や育成に 資する活動に対する助成 活動報告書

～水中ドローンを活用したリカレント教育～

一般社団法人利根沼田テクノアカデミー

【団体名】

一般社団法人利根沼田テクノアカデミー

【活動テーマ】

配管設備点検を行う水中ドローン操縦士の教育訓練

【活動期間】

令和4年11月14日

【発表日】

令和5年10月11日



(一社) 利根沼田テクノアカデミー

職業訓練校 (旧南郷小学校)

所在地：群馬県沼田市利根町日影南郷335-1

ドローン技能訓練校 (旧平川小学校)

所在地：群馬県沼田市利根町平川839

①利根沼田テクノアカデミー事業紹介

職 人 育 成 塾
(旧：南郷小学校利活用)



職人育成塾では、企業に入職した新入社員を
対象に職業訓練を行なう。

合宿型で3か月間訓練を行ない、現場で必要
な知識や技術を習得する。

そうすることにより、現場に出ても先輩たちと一緒に
作業する事ができ、早い時期から仕事に対してや
りがいや魅力を感じられるようになります。

板 金



瓦



左 官



大 工



水道設備



塗 装



①利根沼田テクノアカデミー事業紹介

ドローン技能訓練校
(旧：平川小学校利活用)



ドローン技能訓練校では、安全第一の訓練を行ないます。
JUIDA(日本UAS産業振興協議会)の認定スクールになっています。

地域産業・防災、建設業向けとしてICT技能者の育成講習も実施しています。

初心者向けのコースから「安全運航管理」「操縦技能」の資格が取得できるコースまであります。

教室



体育館



グラウンド



受講料と訓練内容について

受講料

◎3か月間 ¥1,200,000

※訓練期間中の給与、食費、宿泊費、入浴費は別途

助成金

【人材開発支援助成金】

≪人材育成支援コース：
認定実習併用職業訓練≫

経費助成：2/3（上限50万円）

賃金助成：off-JT 760円×450時間

O-JT 定額 20万円

≪建設労働者認定訓練コース≫

賃金助成：off-JT（訓練校での3か月間日額3,800円～ × 60日間

タイム測定により日々の訓練を数値化

ビス打ち訓練



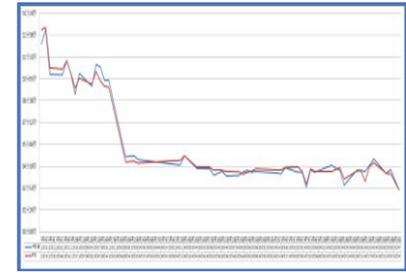
はさみ訓練



くぎ打ち訓練



タイム測定

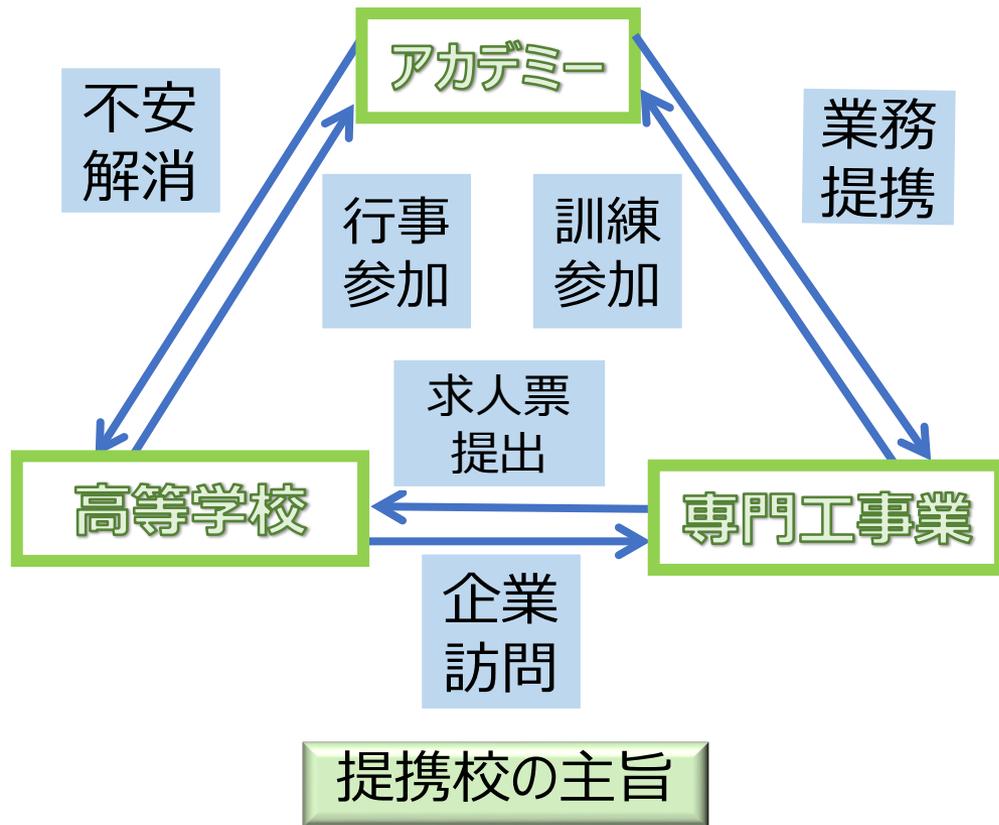


	受講費用	特定訓練(賃金)	建労認定(賃金)	総額
offJT	500,000	342,000	228,000	1,270,000
OJT		200,000		

※最低基準を満たして出席率100%の場合

提携校の取り組み

企業との業務提携構想



建設専門工事業とテクノアカデミーで連携し、建設業の魅力を高校等に伝え、若手人材を確保し、建設産業の活性化を目指す。

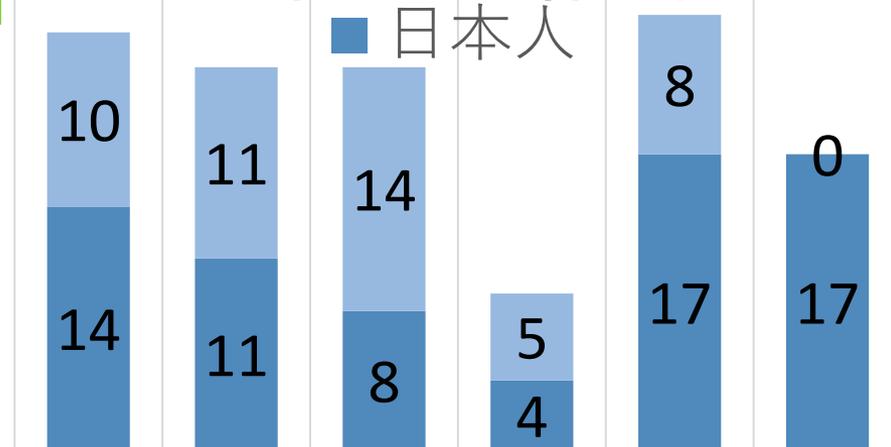
瓦葺き体験



意見交換会



5年間の訓練生徒数



2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年

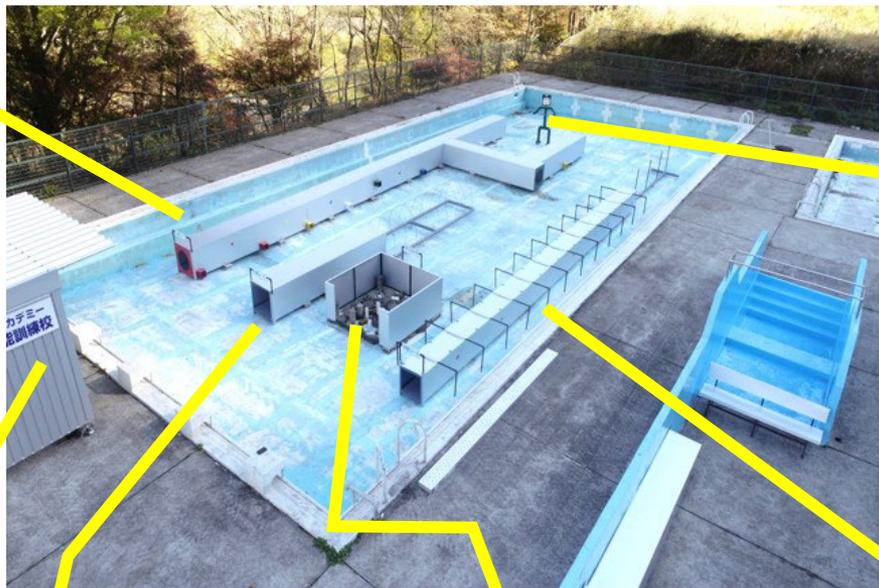


利根沼田テクノアカデミー 水中ドローン技能訓練校

水中ドローン施設



上級コース



救助コース



操縦コース



初級コース



アームコース



中級コース

事業概要

廃校の学校プールを活用し水中ドローン(ROV)技能訓練を行う

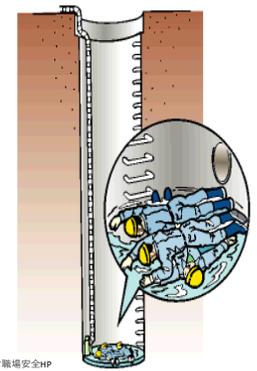
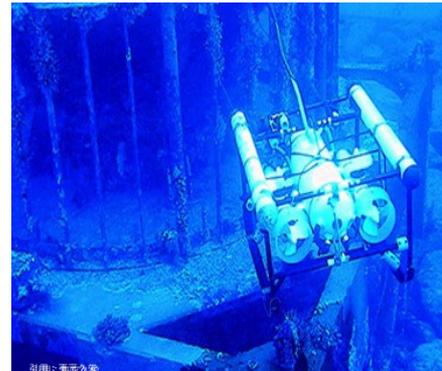


目標

- ①インフラ点検を行う職人の負担軽減及び死亡災害ゼロを目標とする
- ②新しい技術習得による担い手の確保

社 会 課 題

- ① 遊休施設とったプールの今後の活用方法
- ② ダムの老朽化に伴うダム点検用務での潜水士の死亡事故
- ③ 水道管の老朽化に伴う道路陥没等被害の増加
- ④ 管内調査時の硫化水素中毒または酸欠事故による死亡
- ⑤ 水道施設の老朽化



引用：厚生労働省職場安全HP

利根沼田テクノアカデミーが提案する理由

【既存事業の実績】

- ① 廃校の利活用の実績
- ② 空中ドローン(ROV)のノウハウの活用
- ③ ICT建築・ICT土工のノウハウの活用
- ④ 水道設備コースでの実用検証の有効性

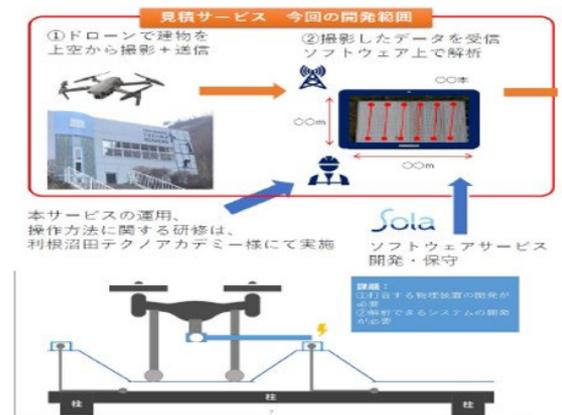
ドローン技能訓練校



ICT土工研修

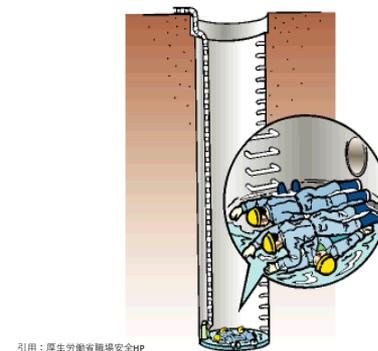
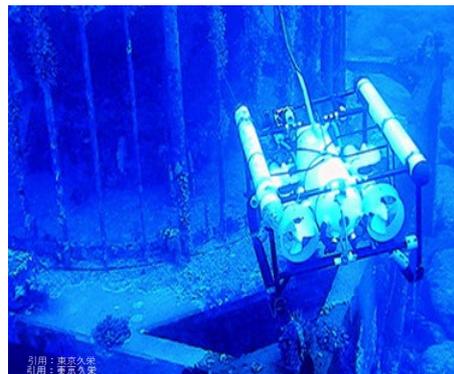


ICT建築の開発



期待できる効果

- ① 廃校になったプールの利活用の促進
- ② 死亡災害の減少（硫化水素中毒または酸欠事故）
- ③ 水道管の老朽化に伴う道路陥没等被害の減少
- ④ 配管内の調査を研修で行うことにより技能の向上
- ⑤ 新たな技能の創出による若手技能者の増加



DRONE



利根沼田テクノアカデミー 水中ドローン技能訓練校

配管設備点検を行う水中ドローン操縦士 教育訓練実地の経緯

当校では建設業の担い手確保を実現するために、短期間で実践的な訓練により、専門工事業の技能継承を行っております。開校してから7年が経過し、瓦・板金・水道設備・大工・左官・塗装の6コースの技能訓練を行っております。

昨今は空中ドローンの技能訓練のみならず、ICT建築やICT土工の研修等も進めてきました。その実績を活かし、水中ドローンでもICTを活用した訓練を実地し、新たな建設業の魅力を創出したいと考えております。

また、卒業生においてもリカレント教育として実地することにより技能向上につなげていきたいと考えております。

活動内容

水中ドローン FIFISH V6 PLUS 導入講習

- ・水中ドローンについて
- ・導入事例
- ・操作説明
- ・実技研修



令和4年11月14日（月）13：00～16：00

参加者 5名

（卒業生3名、水中ドローン資格者1名、大学生1名）

活動成果、効果

【活動成果】

- 新しい技術に触れることができ業界の可能性を感じた
- 配管技能者が操作することにより上達が早かった
- 廃校になったプール活用の新たな事例になった

【今後の期待】

- 水中ドローン操作士の増加
- 建設業の若手技能者の増加
- 配管等を早期点検を行うことにより被害の最小化
- 管内調査を人から水中ドローンに切り替えていくことによる死亡災害の減少

活動状況の写真（座学）



活動状況の写真（実習）



活動状況の写真（実習）



助成金活用内容

- 水中ドローン
- 購入講習
- 研修会開催の運営費
- 研修テキスト印刷
- 研修会講師費用
- PR動画の作成

